

SENDAI Lifestyle



特集

多文化共生の最前線

仙台のエスニック店に行ってみよう！

インタビュー 市内エスニック店 店主のみなさん

仙台で楽しく安心して生活できるように

多文化SENDAI 仙台インドネシアムスリム家族協会 (KMIS)

外国につながる子どもたち 小松島小学校 (その1)

コラム 仙台ではたらく / 子育て in せんだい / 留学生サポートの現場から

C I R 通信 SenTIAの防災啓発事業

SenTIA

Sendai Tourism, Convention and International Association

(公財) 仙台観光国際協会 (SenTIA) 国際化事業部は、言葉や習慣の異なる外国人住民や外国にルーツを持つ人々と暮らす「多文化共生」のまちづくりのため、さまざまな事業を行っています。

WEBサイト

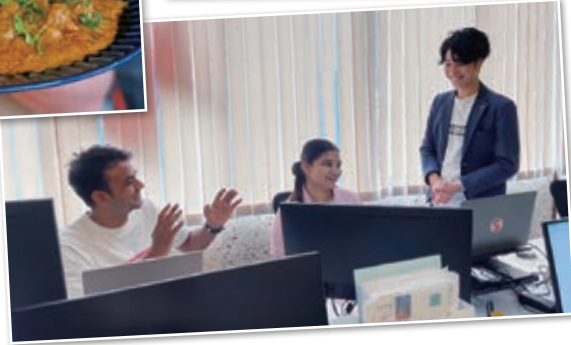


X (旧 Twitter)



Facebook





特集

多文化共生の最前線

仙台のエスニック店に行ってみよう！

モモ（ネパールの餃子）、シンガラ（バングラデシュの春巻き）、バインミー（ベトナムのサンドウィッチ）…、みなさんアジア料理は好きですか？仙台市の外国人住民数は17,000人*を超え、本場の味や食材を提供するお店が増加中。今号では、仙台市内のアジア・エスニックのお店を訪問し、お話を伺いました。

*住民基本台帳人口 2024年11月1日現在

アジアの人たちの増加と ビジネスチャンス

今、仙台市内で増えている外国人住民は南アジアや東南アジア出身の人たち。中でもネパール、ベトナムは増加が著しく、それぞれ2,000人規模のコミュニティになっています。その他フィリピン、インドネシア、スリランカ、バングラデシュも多く、ミャンマーも急増しています（図1・2）。日本語学校、専門学校で学ぶ留学生が多いですが、卒業後に地元企業で働く人、家族を持ち子育てをして長く暮らす人も増えています。

言葉を覚え日本の生活に馴染んでも、食は母国の味を求めたい。また留学生は節約のため自炊をする人も多くいます。こうして同国者の人口が増える。母国の料理や食材を求める需要が高まり、そこにビジネスチャンスが生まれます。市内にアジアのお店が増えているのは、こうした理由があると思われる。

母国の食材が日本で 買える

青葉区一番町の路地にある、ネパール食料店「Koseli Mart（コセリマート）」。近所には日本語学校や留学生が暮らすアパートが多く、ネパール



買い物客で賑わう Koseli Mart

の人たちの馴染みの店になっています。店内には、ネパール料理に欠かせない食用油 Ghee（ギー）やさまざまなスパイス、豆類、冷凍肉など、日本のスーパーでは買えない珍しい食材が積まれています。商品表示は英語やネパール語。まるで現地のお店に来たようです。取材時には、ネパールの学生4人組が買い物中。「今日はネパールのお祭りの日で、みんなで鍋をするために食材を買いに来ました」とのこと。楽しそうに相談しながら、食材を選ぶ姿がとても印象的でした。

青葉区中心部にはネパールの他、バングラデシュ、ベトナムの小さな食料店が増えており、オンラインで注文を受け付け配送サービスもする店があります。母国のスパイスや食材のニーズは高く、店舗に行けない宮城県外の在住者からも注文が

あるそうです。また地元の人にも気軽に訪れてもらえるように、店内に日本語表示を追加し、スタッフが日本語で説明してくれるお店も出てきています。

エスニック店が担う さまざまな役割



Dhiramada Bazzarのビノドさん

外国人住民にとってエスニック店は、単に買い物や食事をすだける場所ではありません。次に訪れたのは、太白区向山のネパール食料店「DHIRAMADA BAZZAR（ディラマダバザール）」。

ビノドさんは、仙台に10年以上住んでいます。市内の日本語学校、専門学校を卒業し、今は人材派遣会社の社員として働く傍ら、食料店を開いています。ネパールの留学生たちにとってこのお店は、人生経験豊富な先輩に生活や仕事の相談ができる場にもなっています。



世界ゴハンのスタッフのみなさん

お昼時に伺ったのは、青葉区大町にあるインドネシア料理店「世界ゴハン」。イスラム教の人たちが安心して食べられる「ハラール」料理（イスラム教において食べることが許されている料理）を提供しています。取材時にお店にいたのは、ランチを楽しむインドネシア出身で県北で働く3人。「ここで故郷の料理を味わうと、懐かしい気持ちになります」と話していました。

こうしたお店は、同郷の人たちが集いリラックスできる大事な場所になっています。またこのお店では、インドネシアのほか、ミャンマーや子育て中のザンビア出身のスタッフも働いていて、外国人住民の雇用の場にもなっています。

図1 仙台市における外国人住民の国籍・地域別人数と割合
東南・南アジア出身の人たちが占める割合が増加

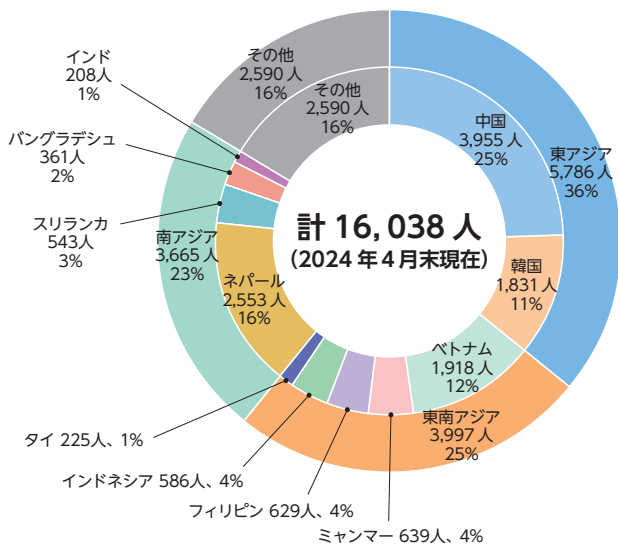


図2 仙台市の外国人住民 主な国籍・地域別人数の変化 (単位:人)

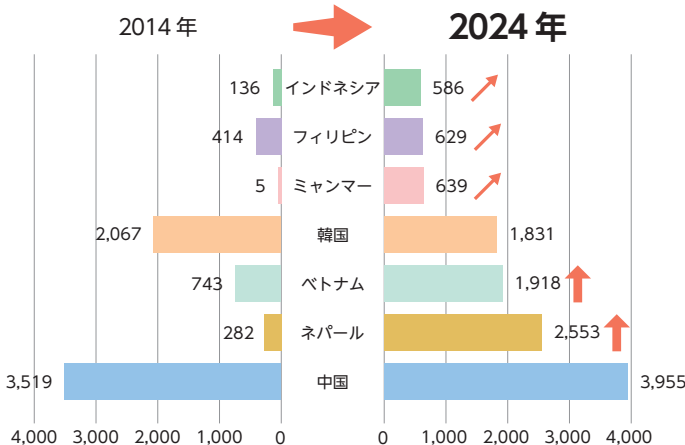


図1・2 仙台市交流企画課発表資料から作成

地域の多文化共生を 進める現場



Halal Hub

最後に紹介するのは、青葉区柏木のバングラデシュ料理店

「Halal Hub（ハラールハブ）」。

おしゃやかなインテリアで楽しめるこのお店は、国籍問わず人気です。名物店主のママンさん（2ページ目の左上写真）は、実はSENTIAの元「せんだい留学生交流委員」。学生時代からさまざまな国際交流・多文化共生の活動に参加してきました。経営者となった今でも、お店を使って日本人と外国人の交流イベントを積極的に開催し、異文化への理解を深める場を作っています。エスニック店は、地域の多文化共生を進める現場にもなっているのです。

Halal Hub

住所 仙台市青葉区柏木 2-6-19 HP▶



次のページには、誌面に登場した他3店舗のインタビュー記事を掲載しています。ぜひご覧ください！

今回紹介したお店以外にも、市内にはたくさんのお店があります。ぜひ、みなさんもお近くのお店を訪れて、異文化交流を楽しみながら、新しい発見をしてみてください。

仙台で楽しく安心して生活できるように

外国人住民にとって大切な場所であるエスニック店。日々お店を切り盛りする店長のみなさんにインタビューしました。



ブルジャ タパ サルミラ さん
ネパール出身。来日10年目。

Koseli Mart Sendai

住所 仙台市青葉区一番町
1丁目6-4



Facebook

仙台で暮らす外国人が安らげる居場所を

夫の仕事で仙台にきました。仙台での生活に慣れた頃、会社員だった夫は不慮の事故で亡くなりました。つらい時期が続き仙台を離れることも考えましたが、自分の店を持ちたいという彼の夢を叶えるために2021年にこのお店をオープンしました。複雑な手続きや自動車免許の取得など、大変なことがたくさんありましたが、いろいろな人が助けてくれて乗り越えることができました。

たくさん支えてもらった分、これまでの経験を生かして他の人を助けたいと考えています。店にはネパール人だけでなく、さまざまな国の方が訪れます。お客様とは、仙台での生活や子育てについて話ながら交流しています。「仙台で一人暮らしだけど、このお店が自分の居場所だ家族のように感じる」と言ってくださるお客様もいるので、寂しさや孤独感を和らげる場所になりたいと思っています。

将来は、飲食店も開きたいです。人々が集い、ゆったりと交流できる場所を提供することが目標です。



チャンド ビノド さん
ネパール出身。
来日12年目、人材派遣会社
スクーデリア (株) チーフ。

DHIRAMADA BAZZAR

住所 仙台市太白区向山4丁目
19-10 共立愛宕橋ビル



Facebook

仙台での生活も仕事もサポート

数年前から人材派遣会社で外国人材の派遣を担当していました。以前から食材店を開きたいという夢があり、社長に相談して、2023年にグループ会社としてこのお店をオープンできました。スパイスや調味料、お肉、ネパールのお米などを販売しています。お店に來られない人のためにデリバリーもしています。

お客さんの中には仕事の相談をする人も多く、本業の人材派遣を活かして仕事探しのお手伝いもします。意思疎通の問題があるので、仕事を紹介した後にも通訳対応などで継続的に支援しています。またお互いが気持ちよく働けるよう、働く人と会社の担当者の両方に、互いの文化や習慣の違いを説明します。

特に来日すぐの人には、日本の生活や仕事のルールを一つひとつ丁寧に教えます。企業の方から「外国人のみなさんはよく働いてくれてますよ」と言われると私も嬉しくなります。

今後も食材店と人材派遣を両立し、より多くの人を支えたいと思っています。



はま ともみ さん
世界ごはん店長。
インターネットテレビ ariTV の
副社長も務める。

世界ごはん

住所 仙台市青葉区大町2-4-1
グランドソレイユ大町 1F



Facebook

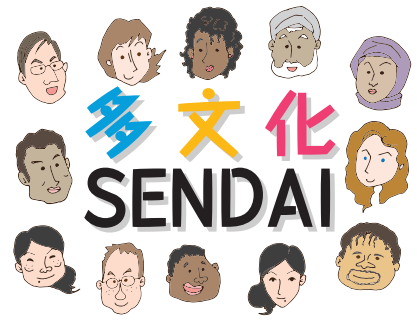
誰もが楽しめて、安心して働けるレストラン

2023年4月にお店をオープン。仙台市内ではムスリムでも食べられる料理を提供するお店が少なく、誰もが安心して食事を楽しめる場所を作りたいという思いで始めました。提供するのにはインドネシアなどのアジア料理で、訪れるお客様がふるさとの味を楽しめるよう日々工夫を重ねています。

お客様は仙台市内の留学生だけでなく、大崎や登米、岩手など遠方からも訪れ、漁業や建築業などで働く人もいます。お店では外国人スタッフも活躍しており、異なる文化や習慣を持つ人たちが働きやすい環境を整えています。日本語がほとんど話せなかったミャンマー出身の学生スタッフは、アルバイトを通じて日本語力が向上し、その成長は大学の勉強でも活かされているようです。嬉しいですね。

今後はお店の名前の通り、さまざまな国の料理を提供し、お客様やスタッフが安心して楽しめる場所を目指していきたいです。

2024年12月時点での情報です。お店の営業時間や最新情報は各店舗へ直接ご確認ください。



仙台で活動する外国人コミュニティや
多文化共生・国際交流団体を紹介します

仙台インドネシアムスリム 家族協会 (KMIS)

団体紹介

去年9月にメディアテークで開催された
イベントに出展。参加者にムスリム文化
の紹介をした。今後も交流イベントを開催
予定。

興味のある方は、
メール muslimsendai@gmail.com、もしくは
インスタグラム @kmisendai のDMまで。

仙台インドネシアムスリム家族協会
(以下KMIS)は、仙台で暮らすイン
ドネシア人のムスリムの方々が、学生
や社会人の垣根を越えて交流するため
に結成されました。

主な活動は、ドラマダンに関する行事、
イスラム教をより深く理解するための
大人の集会、子どもたちにコーランの
読み方やお祈りを教えるクラスの開催
です。これらはインドネシア人やムス
リムに限定したものではありません。
イスラム教では国境や宗教による線引
きをしないため、KMISは広く人々
に開かれた存在になりたいと考えてい
ます。

会長のケマルさんは、「去年6月に
初めて日本人も参加できるイベントを
開催しました。当日参加してくれた仙
台のみなさんがムスリムの文化に興味
を持っていくことがわかり、とても嬉



2024年のお花見にて。毎年1回、自然を楽し
むためのイベントを開催しています。

しかったです。私たちはイスラム教の
ことだけではなく、インドネシアにつ
いても伝えていきたいと思っていま
す。質問があれば気軽に連絡してい
ます」と話していました。

これからも仙台のインドネシア人や
イスラム教徒同士の交流を増やし、日
本人向けのイベントを開催したいの
こと。今後の活動も楽しみです。

外国につながる 子どもたち

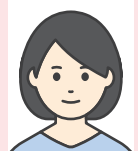


多様な子どもたちが学ぶ学校の様子を
現場の先生に伝えてもらいます

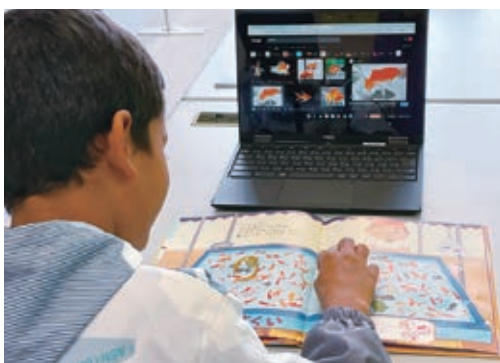
小松島小学校 日本語学習の風景 (その1)

かわ やすこ
香川 泰子 非常勤講師

外国人の日本語支援を始めて17年。
小学校での子どもの日本
語指導は6年目で、
小松島小学校は2年目。
趣味は読書、手芸、旅行、
ピアノを弾くこと。



「金魚ってどんな魚？金色なの？」
ネパール出身の低学年の子から聞か
れた。日本の子もどったら金魚の
色や形、金魚すくいという遊び
を知っているが、この児童の国では
見たことがないらしい。彼は、学校
生活での日本語会話は不自由なくで
きるようになった。しかし周りの友
だちが小さいころから自然と身につ
けてきた、日本の習慣や事物を知る
機会がない。そこで日本語の取り出
し授業では、天気や食べ物、お祭り
など季節の話題を出して日本語を広
げていくことを心掛けていく。金魚
という言葉は、算数に出てきた。解
き方は確認するとすぐにできるよう
になったので、一緒にクロームブツ
クで金魚を調べて写真を見たり、夏
祭りの様子を見たりした。とても
興味を持って調べていて、「夏祭り



「金魚すくいってどうやるのかな？」
絵本でイメージを広げました。

仙台はたらく



張 悠淇(ティオ ユキ)さん / マレーシア・ペナン出身。2016年に来日。東京の日本語学校に1年通った後、2017年来仙。元SenTIAさんだいで留学生交流委員。仙台・青葉まつりが好き。

宮城大学の食産業フードマネジメント学類で学び、卒業後は株式会社日本微生物研究所に就職しました。大学での学びが直接仕事に結びついています。仕事内容は食品の検査で、スーパーに並ぶ食品やお弁当などを扱っています。今までで一番驚いたのは「馬刺し」です。マレーシアには肉の生食文化がないため、食中毒の危険性以前に、日本人はこれを食べるのか…と最初は信じられませんでした。

職場の検査員は6名で外国人は私だけですが、みなさんとても優しく、働きにくさを感じたことはありません。ただ、同僚との会話で文化の違いに気づくことがあります。例えば、お盆帰省中の楽しい思い出話を聞いたときです。マレーシアのお盆は霊に關係しているため、より儼かな雰囲気があります。正月は反対で、マレーシアの旧正月は盛大に行われるため、日本の静かな三が日は少し寂しく感じることがあります。

マレーシアは多民族国家で、マレー系のほかにもさまざまなルーツを持つ人が共存しています。文化や宗教も人によって異なります。みなさんの周りにマレーシア人がいたらぜひたくさん話を聞いてみてください。面白い発見があるかもしれません。



仕事で食品検査をしています。

子育てせんだい



Chand Jay Bahadur (チャンド ザヤ バハドル)さん / ネパール・マヘンドラナガル出身。奥さんと子ども2人の4人家族。現在は市内のカフェにて勤務。

2014年に日本語学校の留学生として仙台に来ました。その後、専門学校に進学し、飲食店や物流会社での仕事を経験しました。生活が落ち着いてきた2020年に妻を、2年後には長女を呼び寄せました。長女とは生まれてから数回しか会っていませんので、一緒に暮らせることがとても嬉しかったです。

一昨年、2番目の子どもが仙台で生まれました。妻は次女の世話で忙しく、日本語も勉強のため、私が長女の保護者面談や通院に付き添っています。カフェの仕事が夜遅くまでであるため、長女の宿題を見るのは毎朝出勤前の時間です。特に国語を見るのは大変ですね。ネパールでは一般的に祖父母などの家族と一緒に住み、みんなでサポートし合いますが、日本ではすべてを私たち夫婦だけでやらなければならぬので、とても大変です。

ただ、日本の行政サービスは充実していて、新生児訪問などの制度はとてありがたいです。最近では、家族も日本の生活に慣れてきました。家では子どもと会話練習アプリで日本語を勉強し、休みの日は一緒に過ごしています。離れて暮らしていた期間が長かった分、家族が一緒にいることの大切さを強く感じています。



留学生サポートの現場から



玉澤 大助(たまざわ だいすけ)さん / 東洋国際文化アカデミー教務部。塩竈市出身。学生の生活やアルバイトのサポート業務を行っている。趣味はクラシック音楽、旅行、温泉、園芸、畑。

近年、当校がある青葉区宮町は外国人住民が増えています。宮町商店街の方から「留学生との交流を深めることにより地域の高齢化対策や防災活動に繋がってほしい」と声をかけていただき、当校では留学生たちが地域のまちづくりイベントに積極的に参加しています。国際交流をしながら町を掃除したり、東照宮のお祭りでおみこしを担ぎ、貴重な体験をさせていただきました。ハロウィンでは「守りハロウィン」に参加して近隣の小学生とも交流しました。日本人と交流することで日本語の勉強にもなっています。

バン格拉デシユの学生・シユボさんは東照宮のどんと祭ボランティアに参加しました。彼は「祭りでふるまわれた日本のカレーを初めて食べました。とても美味しいです。毎日カレーを食べていますが、自分の国のカレーと全然違います。もっと食べたいです！」と嬉しそうに日本人のスタッフに話していました。今後は、住民と留学生との交流をもっと深めて地域の防災活動にもつなげていきたいと考えており、商店街の方と話を進めています。



東照宮のお祭りにて、お神輿の前で。

CIR通信 Vol.9 SenTIAの防災啓発事業

仙台市国際交流員（CIR）がSenTIAで携わっている多文化共生事業について紹介します。

今回は
テシアから
紹介します！

CIR テシア

カナダ・バンクーバー出身。
来日3年目。
猫とコーヒーが好き。



CIR イーライ

アイルランド・コーク出身。
来日2年目。
小説と登山が好き。



※国際交流員（CIR：Coordinator for International Relations）
JETプログラム（政府の外国青年招致事業）で来日し、自治体の国際交流担当部局等で国際交流や多文化共生事業に携わっています。
仙台市には現在、2名のCIRがいます。

読者のみなさんお久しぶりです。CIRのテシアです。いかがお過ごしでしょうか。今回はSenTIAの防災啓発事業について紹介したいと思います。

日本は自然災害が多いため、日ごろから災害に対する備えが大事とされています。しかし、仙台に住む外国人の中には自然災害が少ない国や地域から来た人が多く、災害や防災について知らないことがたくさんあります。そのため、SenTIAでは仙台に来たばかりの留学生向けに生活オリエンテーションで、災害時の対応や防災の取り組みについて伝えるほか、外国人向けのイベントや地域の防災訓練などに協力しています。

去年の6月には、仙台市の姉妹都市であるアメリカ合衆国リバサイド市から来た40名の大学生向けに、東日本大震災と防災についてのプログラムを企画しました。当日は、仙台市沿岸部で活

動をしている学生団体にも協力いただき、震災遺構荒浜小学校を始めとする被災地見学やワークショップなどを行いました。

ほかにも、東北大学と連携し、オーストラリアやイギリスなどから来た短期留学生向けに防災研修で、震災や仙台市の取り組みについて講義を行いました。

私は通訳や講師として携わり、改めて外国人向けの防災啓発が重要であると痛感しました。参加者の多くは私と同じ2000年代生まれで、東日本大震災に関することが曖昧で、災害に対する警戒心も薄いです。しかし、私は講座や被災地見学などを通して、自然災害の怖さや普段からの備えの大切さを学んだことは、仙台を離れても母国で活かせると感じました。これからも外国人が災害や防災について学べる機会を作っていきたいと思っています。



東北大学の短期留学生向け防災研修では、講師として学生にSenTIAの取組を説明しました。



昨年10月に行われたJR仙台駅での帰宅困難者対応訓練では、日本語が話せない外国人役で参加しました。

SenTIA サポーター（国際化事業部 賛助会員）募集中！

言葉や文化の違いをこえて、誰もが生き生きと暮らせる「多文化共生の地域づくり」に向けて、皆様からの支援をお待ちしています。事業にご賛同いただける方は、どなたでもお申し込みいただけます！

会員の種類／会費（年度ごと）

学 生／1口 500円 個 人／1口 1,000円
市民団体／1口 2,000円 法 人／1口 5,000円

申込方法等は、ウェブサイトをご覧ください。
市民団体・法人会員のサポーターも紹介しています。

<https://int.senia-sendai.jp/j/activity/supporter.html>



2024年度登録の法人会員のご紹介
（※50音順）

- EZY外国語
- ギャラリー ターンアラウンド
- 一般財団法人日本国際協力センター（JICE）東北支所
- 公益財団法人宮城県国際化協会

仙台多文化共生センター をご利用ください

TEL 022-224-1919



仙台多文化共生センターでは、仙台に暮らす外国人住民の相談に多言語で対応しています。地域や学校、公的機関等からの各種相談にも応じています。お気軽にご利用ください。

通訳サポート電話 TEL 022-224-1919

3者間通話ができる電話を使って外国人住民への生活情報の提供と、通訳によるコミュニケーションのお手伝いをします。区役所・市民センター・保育所・学校などで、外国人住民とのコミュニケーションでお困りの際にご利用ください。(商用利用はできません)

外国語による相談対応

外国人住民の日常生活での困りごとや悩みごとに、外国語で対応します。

対応言語 英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、タガログ語、タイ語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、イタリア語、フランス語、ドイツ語、マレー語、クメール語、ミャンマー語、モンゴル語、シンハラ語、ヒンディー語、ベンガル語、ウルドゥー語、ウクライナ語

外国人のための専門相談会

在留資格、法律、仕事で困っていること、行政手続き、税金、起業・経営などについて、専門家に相談できます。事前申込が必要です。通訳も無料で申し込めます。くわしくはお問い合わせください。

2025年2月以降の予定 時間はすべて1:00 p.m.～4:00 p.m.

※開催日は変更になる場合があります。ウェブサイトをご確認ください。



仙台出入国 在留管理局	仙台弁護士会	宮城県 行政書士会	宮城労働局	東北税理士会	仙台市 企業支援センター アシ☆スタ
毎月第4金曜	毎月第2金曜	毎月第1土曜	奇数月の 第3木曜	次回予定は ウェブサイト でご確認ください。	次回予定は ウェブサイト でご確認ください。

仙台多文化共生センターは移転します。

2025年2月9日まで

※移転のため2025年2月10日～2月16日は休室します。

住所 仙台市青葉区青葉山無番地仙台国際センター 会議棟1階

2025年2月17日から

住所 仙台市青葉区国分町3丁目6-1 仙台パークビル1階

毎日 9:00 a.m.～5:00 p.m.(休室日はウェブサイトからご確認ください)
TEL:022-265-2471 FAX:022-265-2472
Email: tabunka@sentia-sendai.jp

仙台多文化共生センターは、仙台市の委託を受け、(公財)仙台観光国際協会 (SenTIA) が運営しています。

